

『相模原市中央区 子ども食堂応援プロジェクト』

—「どんな方でも自分らしく豊かに暮らせる地域の実現」に向けて—



大場 啓一郎

Keiichiro Oba

(敬称略)

医療法人社団若葉堂 理事長

大場内科クリニック 院長

医学博士

2014年 相模原市中央区に大場内科クリニック 開院

2016年 医療法人社団若葉堂理事長 就任

2019年 リーフキッズ保育園相模原 開園

医師として、地域企業としてできること

今回のような他団体を応援する取り組みは、実は今回が初めてなんです。

以前から子育て世代の人たちの居場所やケアについては関心を持っていました。クリニックで多くの患者さんを診ていると、心理社会的な要因や生活環境の問題が原因で症状や病気を発症される方をたくさん見してきました。年齢に関わらず、本当に生きづらい世の中だなと感じていて、医師として、地域企業として何かできることはないかと日々考えていました。

私たちのスタッフには子育て世代が多く、スタッフやスタッフ家族の幸せを考えているうちにリーフキッズ保育園相模原やリーフ児童発達支援相模原を始めることになりました。人が心身ともに健康で豊かに自分らしく暮らしていくためには、幼少期の教育環境が本当に大切だという結論に至ったからです。

ただ、自分たちで新たに事業を立ち上げるには現在手一杯で余裕がありません。「何かできないかなあ」と日々悩んでいた時に、偶然思いついたのが今回の支援方法でした。

すでに地域には素晴らしい活動をしている団体やグループがたくさんあります。どこも本当に素晴らしくて、思い出すと涙が出てくるほどです。

私たちが新たに運営しなくても、こうした既存の団



体を応援することで、「どんな方でも自分らしく豊かに暮らせる地域の実現」という私たちのミッションが果たせるのではないかと考えました。

実は、このプロジェクトは私の想いが先行して始めたもので、私たちの力だけではできませんでした。社会福祉協議会の担当の方に様々な仲介や実務、相談に乗っていただきました。そして何より、このプロジェクトをメインで進めてくれた若葉堂の事務スタッフや事務長には本当に感謝しています。

居場所づくりに取り組む人たちを応援する

実は、私たちが新たに子ども食堂や居場所を始めることもできたと思います。しかし、今回は既存の運営団体を支援する方法を選びました。その理由はいくつかあります。

まず一番大きな理由は、すでに地域には応援したい素晴らしい団体やグループがたくさんあることです。どこも本当に素晴らしい活動をされています。新しく始めるよりも、こうした既存の取り組みを応援することで、より効果的に地域貢献ができると考えました。

正直にお話すると、私たちは現在、保育園や児童発達支援の運営で手一杯の状況です。新たに子ども食堂や学習支援を立ち上げる人的・時間的余裕がありません。スタッフに子育て世代が多く、その家族の幸せも考えながら事業を運営している中で、新しい事業を始めるのは現実的ではありませんでした。

また、子ども食堂のような居場所は、自由度が高く、小規模で、顔見知りで集まるような集団であることが重要だと考えています。互いに評価を求めることもなく、同調圧力のない居場所が必要だと思います。

こうした社会の隙間を埋める活動は、行政が解決しようとするとうとう管理が強くなり、行きづらく、通いづらくなってしまいます。企業が直接運営しようとしても、事業管理をする以上、同じような状態になっ

てしまう可能性があります。スタッフの心通う対応が求められるこの分野では、雇用されている人よりもボランティアの方のほうがうまくいくことが多いのではと私は考えています。

さらに、子ども食堂にくる子ども保護者、地域の方たちを温かく迎え入れてくれる運営者やスタッフの方たちも、社会からケアされるべきだと思います。ただでさえ生きづらい世の中で、未来への不安、経済的な問題、人手や時間の問題など、子ども食堂や居場所を運営している方たちは想像以上の苦勞をされ、困難にさらされています。

子ども食堂など居場所を運営してくれている人たちの利他の心、誰かを想う心は本当に尊いものです。困っている人を助けたいという想いは誰もが持っていますが、様々な現実には往々にして押しつぶされてしまいます。だからこそ、子ども食堂や居場所を運営する人たちは、地域社会がどうしても守らなければいけない存在だと思うのです。

「どんな方でも自分らしく豊かに暮らせる地域の実現」これが私たちのミッションです。このミッションを果たすために、必ずしも私たち自身が直接運営する必要はありません。地域の子どもの食堂など居場所を運営する人たちを何らかの形で応援し、ケアすることでも、私たちのミッションは果たせると考えました。

金銭的な応援はできる限り続けたいと思っていますが、それにこだわらず、私たちはこういった人たちに「小さな応援が伝わればよい」「あなたたちのことを応援しています、というメッセージが届けばよい」と思っています。大変だけど、どこかで応援してくれる人がいる。「そういえば若葉堂さんが応援してくれてたなあ」ぐらい思い出してもらえれば本望です。

広告宣伝費による新しい応援のかたち

この仕組みは、偶然思いついた方法なのですが、結果的にはとても良い形になったと思います。

どうにかしてより多くの応援を届けたいと思案した結果、このような方法に行き着きました。

私たちの法人のロゴが入ったボールペンを子ども食堂に配り、子ども食堂の方々に広告活動を行ってもらい、その対価として広告費を支払うという形で金銭的なバックアップを行いました。この方法には、いくつかの良い面があると感じています。

まず、事業者である私たちにとっては、確かに広告宣伝費として適切に処理できるメリットがあります。単なる寄付ではなく、事業活動として位置づけることで、継続的な支援がしやすくなります。

これは企業が地域貢献を行う上で、とても重要なポイントだと思います。

一方で、支援を受ける側にとっても、単なる「もらいもの」ではなく、広告活動という「対価のある活動」と



して受け取ることができます。これは、受け取る側の心理的な負担を軽減する効果があるのではないかと考えています。

また、ボールペンを使ってくれる人たちが私たちのロゴを見て、「そういえば若葉堂が応援してくれていたな」といつか思い出してくださると嬉しいです。結果的に、私たち法人の認知や知名度、想いを広げることができたので、十分な広告効果を感じています。

この方法の一番良いところは、支援する側と支援される側の両方にとって意味のある関係性を築けることだと思います。私たちは応援できて、子ども食堂の方々は活動資金を得られて、そして地域の人たちには私たちの想いが少しずつ伝わっていく。みんなにとって良い循環が生まれているのではないのでしょうか。

企業が地域や社会に果たす役割として、助け合いの姿勢が大切だと考えています。どんな人であれ、今ここに立っているのは、努力だけでなく偶然という名の贈り物によるものです。生まれた環境や健康、出会った人々、社会が築いてきた制度、これらは誰一人として選んだわけではありません。

たまたま応援する立場にある私たちも、明日には支援を必要とする側になるかもしれません。不確実な人生の只中で、今回のように地域を応援できたのは、日頃から私たちの事業を支えてくれる方々の広い応援があってこそです。この連帯の輪は、一方通行ではありません。応援する側も、必ずどこかで誰かから応援されています。

そう考えると、助け合いは「施し」ではなく、偶然の恩恵を分かち合う行為に変わります。今回の広告宣伝費という仕組みも、そのような対等な関係性を表現する方法として機能していると思います。

今後も、このような事業者にとってもメリットがあり、継続可能な支援の形を模索していきたいと考えています。

みんなで作る豊かな地域社会へ

今後は理想的には、金銭的な応援にこだわらず、私たちでも力になれることを続けていきたいと思っています。

まず具体的に考えているのは、無料学習支援を子ども

も食堂と同じような形で応援したいということです。子ども食堂や無料学習支援のような居場所を運営する団体や個人を、もっと広く応援していきたいと考えています。

医療業界は今後さらに厳しくなることが予想されますが、できる限り、いつも応援して下さる地域へのお礼も含めて、地域社会の一員として、こういった地域への応援活動を続けていきたいです。

長期的には、子ども食堂や学習支援だけでなく、様々な地域活動を行っている人たちへの支援も視野に入れています。居場所を作ることは今後の社会に求められていることですが、子ども食堂や学習支援の方たち、様々な地域活動を行っている人たちだけに押し付けるのは、本来のあるべき姿ではありません。みんなでやるべきことですが、仕事や家庭、時間や人手の事情があり、現実的になかなか参加できないことも多いのが実情です。

だからこそ、私たちのように直接参加は難しいけれど応援はできるという立場の企業や個人が、様々な形で支援することが大切だと思います。今回のような広告宣伝費という仕組みも含めて、継続可能で、支援する側にもメリットのある新しい支援の形を模索していきたいと考えています。

また、私たちの基本的なミッションである「どんな方でも自分らしく豊かに暮らせる地域の実現」に向けて、保育園や児童発達支援の事業も充実させていきたいと思っています。人が心身ともに健康で豊かに自分らしく暮らしていくためには、幼少期の教育環境が本当に大切です。「ここにある自分のままでよい」「自分を好きでいられる」そんな豊かな自己肯定感を持って幸せに生きていける子どもたちを、ひとりでも多く育てたいと思っています。

スタッフだけではなく、地域のどんな方も、いつかはその子どもたちも、豊かに幸せに暮らして欲しい。そのために、直接的な事業と地域への応援活動の両方を通じて、地域社会に貢献していきたいと考えています。

私たちの社会は、他者から受け継ぎ、共有してきた財産、安全な公共空間や教育、インフラ、そして互いへの信頼の上に成り立っています。自分の幸運を社会の共通善に結びつけることで、初めて偶然は意味を帯び、運が良かった者には共に担う責任が生まれます。だからこそ私たちは、「持っているものをどう守るか」ではなく、「授かったものをどう活かし、次の誰かへ手渡すか」を問い続けたいのです。



医療法人社団若葉堂『中央区 子ども食堂応援プロジェクト』の概要 (若葉堂 HP <https://obanaika.com/>)

○目的

- ・地域の子育て支援の輪を広げ、より多くの子どもたちと家族が笑顔で過ごせる地域社会を実現するため、中央区で活動する子ども食堂への支援を行うことを目的とする。

○対象

- ・相模原市子どもの居場所情報サイトに掲載されている中央区内で定期開催している 15 箇所の子どもの食堂

○期間

2025 年 3～5 月

○内容

- ・若葉堂グループのオリジナルグッズ (ボールペン) を配布。子どもの居場所で使用し、広告活動を行う対価として応援金を提供。
- ・相模原市社会福祉協議会「子どもの居場所総合相談窓口」で対象先への案内やグッズの受け渡しなどを協力。

※『中央区子ども食堂支援プロジェクト』からプロジェクト名称変更)

※2025 年 7～8 月、『中央区無料学習支援 応援プロジェクト』実施。中央区内の無料学習支援 14 箇所に応援金を提供。

※大場理事長へのヒアリングをもとに相模原市社会福祉協議会子どもの居場所総合相談窓口にて作成